

新年にあたり 不撓不屈



代表理事組合長
原 浩



新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素はJAふかやの事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和4年も世界的な異常気象に見舞われた1年となりましたが、この傾向は続いていくものと感じています。新型コロナウイルス感染症は、今冬、インフルエンザとのダブル流行が取りざたされています。終息の兆しが見えてこない厳しきとともに、食糧・エネルギー・生産資材・原材料価格などが連続して値上げされ、円安の進行による買い負けが見え隠れしています。ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、地政学的なリスクによる世界情勢の不安定化がもたらす国内農業への多大な影響が、これ以上に深刻なものとならないよう、JAグループさいたまの一員として、地元行政・県・国に対する働きかけを継続してまいります。

管内の農業情勢では、昨年は降雪による露地作物及び農業施設の大きな被害があったことから、販売にも相当なダメージを受け、梅雨明け以降の猛暑日の連続や天候不順などにより、農産物の品質・収量に影響が及びました。総体的には、9月以降の野菜類は前進出荷の傾向が見られるなか、ブロッコリーやキュウリ等は順調な出荷と相まって安値基調で推移してきました。令和4年産米は3年産米に比べ概算金に若干の上乗せがあり、全農への委託販売のほか、業者への直接販売や直売所での販売分が全体集荷数量の6割を占める状況となっています。花卉類は、切り花を中心に催事の再開により堅調に推移したと見られる一方で、鉢物・植木については、家庭需要の落ち込みにより厳しいものがあつたと認識しています。生乳は、メーカーとの間で1キロあたり10円の乳価引き上げが実施されるとともに乳製品も値上げされ、一部には「生産コストの上昇が転嫁された」との認識もあるようですが、不需要期における今後の消費動向を注視する必要があります。さらには、「2024年の物流問題」が目前に迫っていることなど、農業・JAを取り巻く環境は改善に向かう気配がなく、非常に厳しい状況が続くものと思われまます。

今後とも、年度末に向けて「JA自己改革工程表」の進捗管理をしっかりと行い、「中期3か年計画」と歩調を合わせ、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に引き続き取り組み、地域社会との繋がりを維持・強化できるよう努めてまいります。

様々な課題に直面している国内農業ですが、農畜産物のかけがえのない生産基盤を将来に繋いでいくため、役員が一丸となって「組合員、地域の皆様から必要とされ、選ばれらるJA」を目指してまいります。

結びに、「どんな状況にあつても挫けず、諦めない強い気持ちで臨みたい」、「明けない夜はない」と信じ、本年が組合員・地域の皆様にとって良き年となるようご祈念申し上げます。年頭の挨拶といたします。